

ここ数年で日本に新たに紹介されたスイスのハイエンド・オーディオブランドは少なくないが、ソウルリユーションは、サウンド、デザイン、操作フィードバックなど、すべての面において、おそらくそのどれよりも話題を呼ぶものと確信する。

ソウルリユーションは、電気工芸部品や電気モーターを製造するスイスの老舗電機会社シユベモット社(1956年創業)が、2000年に設立したオーディオブランドだ。想像通り、ブランド名はソウルとソウルリユーションの造語である。

第一弾のモデルは、プリアンプ720と、パワーアンプ710のペア。双方とも何の変哲もないスクエアな箱に映るが、驚くべきことに、シャーシには表から見える範囲でヒス類がまったくない。これは、デザインセンスのよさと、精度の高い工作技術の融合によるもの。防振対策、電磁シールドなどが十分に練られていることはいまでもないが、何しろその重量は、720で30kg、710で実に80kgにもおよぶのだから、ヒスを露出させずに堅牢さを保つことがいかに困難かは、想像に難くない。そしてこのソウルリユーションの筐体デザインは、ドイツの2006年レッドドット・デザイン賞を受賞しているのである。

ソウルリユーションは多くの測定データを公表し

ているが、これはバックに電機部品メーカーが控えているという事実から納得がいくことだ。全高調波歪み率、周波数特性、チャンネルセパレーション、スルーレートや出力/負荷特性など、多岐に渡っている。これは製品に対する絶対的な自信の表われに他ならない。

プリアンプ720は、オーディオ回路/デジタルコントロール回路に個別の電源を配し、完全左右独立チャンネル基板によるデュアル・モノコンストラクションによる、圧倒的なチャンネルセパレーションと、40MHzまでリニアな増幅が可能な広帯域アンプに加え、超低出力インピーダンスによって長いケーブルの接続にも万全な対応が図られた。入力信号にDC分を検知すると、自動的にカップリングコンデンサーを挿入するなど、付帯機能の獨創性も見逃せない。

ポリウム機構のたいへん凝っており、金属皮膜抵抗ネットワークの組合せをリレーで制御しているが(1dB毎/80ステップ)、ポリウム回路に音量設定用PGAアンプを並列に挿入し、ポリウム設定時のみこれを働かせてリレーの不快感動作音を排除している。

パワーアンプ710で刮目に値するのは、オリジナルのリニア補正アンプ回路である。入力バッファ





Soulution

未踏

彗星のごとく突然現われ、
瞬く間に評判となる事例は、
どんな世界にもある。
オーディオとして例外ではない。

私はスイスの新進ブランド「ソウリューション」にその予兆を感じた。
セバレートアンプの音を聴き、そのコスメティックデザインを見て、
これは十年に一度の製品かもしれないと思い、身震いを覚えたのだ。
そのスピーカー支配力は、まさに未踏の領域にある。



